

「最高峰の舞台で最高のパフォーマンスを目指します」。ロンドンパラリンピック競技大会の日本代表選手団の結団式が7月23日、都内で開かれた。赤と白のラインが入ったおそろいのブレザーに身を包んだ選手らは厳粛な面持ちで式に臨み、決意を新たにした。8月中旬にも日の丸を背負ってイギリスへ飛び立つ。

8月29日から12日間の日程で開催されるロンドン大会には、165か国・地域から約4,200選手が出場する。日本は135選手が17競技に参加し、役員を含めた選手団は244人に上る。4年前の北京大会と比べ、女子車いすバスケットボールと男子シッティングバレーボールが出場権を得られなかった関係で、今回の出場選手は27人少ない。

結団式の開会にあたり、鳥原光憲・日本障害者スポーツ協会会長は「皆さんの活躍が東日本大震災の被災者をはじめ多くの国民に感動と勇気と夢をもたらす」とあいさつ。また、震災からの復興に向けた大きな推進力にもなり、「自らの目標に果敢に挑戦し、日々の鍛錬が報われるよう心から願っている」などと語った。

来賓として登壇した西村智奈美・厚生労働副大臣は「上位入賞を目指すことももちろんだが、今回選

日本に笑顔届けたい、パラリンピック結団式

手に選ばれなかった仲間の思いも一緒にロンドンへ届けてほしい」と話した。

続いて、中森邦男・日本選手団長から、旗手を務める競泳の木村敬一選手に団旗が手渡された。

選手団の主将を務める陸上の土田和歌子選手は「誇るべき日本の強さを世界に証明するため、全身全霊で個々の可能性へ挑戦する」と宣誓。「支えてくれる皆さんの思いを胸に、最高峰の舞台で最高のパフォーマンスを目指す。被災地に勇気と元気を、そして日本に笑顔届けたい」と決意を表明した。

結団式後の壮行会には選手らはリラックスした様子で参加した。野田佳彦首相も駆け付け、「日ごろ鍛錬を重ねて勝ち得た技と力を見ることで、国民は夢と勇気と感動をもらう。被災地で懸命に復興に取り組む人は、自分の姿を重ねて応援する人も多いのではないかと」と激励。乾杯後、選手に声を掛けながら会場を回り、記念写真に応じた。

選手らは第1陣が8月19日にはロンドンに向けて出発する。4年前の北京大会で日本は金メダル5個、銀メダル14個、銅メダル8個を獲得。今回はこれを上回る活躍が期待される。

(福祉新聞・2585号 2012年7月30日)

国が運営するホームページのうち、障害者への配慮に関するJIS（日本工業規格）の最低基準を完全に満たしている省庁のサイトが一つもないことが7月3日、民間企業の調査で分かった。

調査はコンサルティングなどを行うアライド・ブレインズ(株)（東京都千代田区）が5～6月に、首相官邸や厚生労働省、裁判所など49府省のサイトで実施。同社が独自に開発したプログラムツールを使用し、障害者や高齢者のウェブアクセシビリティに関するJISへの対応状況を調べた。

その結果、全ページで基準を満たす府省サイトは

省庁のホームページ、障害者への配慮不足

なかった。具体的には、音声読み上げソフトが正しく動かないページが29.2%、画像の内容を説明する文章がないページが29.0%に上った。

府省の全ページのうち、56.5%が基準を満たしていなかったという。

同社は「高齢者や障害者に配慮したページが少ないのは、サイト制作を委託された会社の技術力の低さを表している。また、管理する府省職員も制作にあたり配慮が必要ということを知らないのでは」と話している。

(福祉新聞・2585号 2012年7月30日)